

委員長 後藤 修一
副委員長 木村 祐一
委員 丸内 三千代
委員 神田 公直
委員 尾方 洋直

健康福祉常任委員会

平成25年度合志市一般会計
補正予算について

(福祉課)

問 児童発達支援と放課後等デイサービスの対象人数について。

答 平成24年度実績として利用した延べ人数は、障害児通所給付費のほうでは1,035人で、児童相談をされている分が81人となっており、この障害児通所給付費の内容は、児童発達支援と放課後等のデイサービスがある。

問 児童福祉費の設計委託料について。

答 学童保育施設を平成26年度に建設するため、平成25年度に事前申請が必要になり、そのための図面等の作成委託料である。内容は合志南小、西合志東小とも2階建ての施設を考えている。

平成24年度合志市一般会計
歳入歳出決算について

(福祉課)

問 生活保護費の医療費扶助の減について。

答 平成23年度から24年度の金額は2,000万円以上の医療扶助の減である。原因は、入院の扶助で人数減が大きい。精神疾患等の長期入院患者数は変わらず、3大病等の入院による扶助額は減って

いる。

(健康づくり推進課)

問 こころの体温計システム運営管理業務委託について分析は。

答 実人数については、個人情報につながるものでアクセスを消しているのかわからない。ただ、システム上はできると聞いている。今後は、その実数把握と相談件数を把握できればと思っている。

(子育て支援課)

問 こども医療費助成事業の増について。

答 件数は年々伸びている。償還と現物の件数の違いでいうと、平成22年度償還(保護者からの請求)件数76,000件、23年度67,000件、24年度60,000件である。現物(病院からの請求)のほうは、平成22年度48,000件、23年度71,000件、24年度79,000件である。

(高齢者支援課)

問 特養ホーム待機者数は。

答 合志市には特養ホームが2カ所あり、重複分を考慮して150〜200人ぐらいである。今年度地域密着型で58床できるので、100〜150人ぐらいになる。

平成24年度合志市国民健康
保険特別会計歳入歳出決算
について

(健康づくり推進課)

問 減収費について

答 平成25年度については一世帯当たり30枚にしている。この減収券は高齢者支援課でも配布している。

(反対討論)

国保会計の現状として制度的な問題について反対である。

(賛成討論)

国民健康保険は、医療を安心してかかれる制度であり賛成である。

平成24年度合志市後期高齢
者医療特別会計歳入歳出決
算について

(高齢者支援課)

問 後期高齢者健診受診者数が減った理由は。

答 健診時期が限られている事などがあり伸び悩んでいる。来年度から後期高齢者医療保険でも人間ドックを開始する予定である。

(反対討論)

制度設計そのものが間違っている。また県全体での広域連合というのも各自自治体の特性を失わせる医療制度であるため反対である。

(賛成討論)
現状では制度を遂行していくべきであり賛成する。

「年金2.5%削減法」を廃止
する意見書採択に関する請願書

(反対討論)

今後、年金制度を維持していくためにも、また何より今の若い世代の方にこれ以上負担を強いることはできない。今の受給者には厳しい状態であることは理解できるが反対する。

(賛成討論)

これ以上の削減、あるいは生活が困窮していく中で公的年金の削減はするべきではないので賛成する。



障害者支援施設 レンガの家視察

マニフェストの

成果と課題

吉永 健司 議員



吉永 荒木市長誕生から3年半が経過した。就任前、後の心境の変化は。 **荒木市長** 以前は、行政に対し夢の実現という形で提案をしてきたが、取り方によって無理難題を押しつけているということが理解できた。

また、職員がマニフェストランナーとすれば、任期4年の短距離ランナーであり時間の使い方、考え方で私の努力が幾分欠けていたと考えている。

吉永 5本の政策、47の事業を掲げているが、評価と課題は。

まちづくり戦略室長 平成24年度末で35本を実施中、9本が検討中、3本が中止である。

吉永 実施中、検討中の事業で課題は。 **まちづくり戦略室長** 財政的な部分で負担が大きいかことや規制緩和が進まず、市街化調整区域と南部地域の格差が大きくなっていること。

吉永 新たなマニフェストを作成するつもりは。

荒木市長 今期に関して作るつもりはないが、子どもたちの未来のため、多額の借金を残さないよう、財政規



律を堅持し稼げる市を目指し、安全・安心のまちづくり「熊本合志署」、「スマートーCC」、「中九州高規格道路」等、数々の課題解決に向けて1000点は取れなくても合格点は取れるよう努力するが、残り半年では課題解決は難しいと考える。

そのため、多くの課題解決と夢の実現に向け次期市長選挙に出馬する。

待機児童解消を！

来海 恵子 議員



来海 市の課題として北部地区の活性化とバランスとありました。保護者から「朝の10分・20分、夕方の10分・20分はすごく貴重で、南部地区から北部地区の保育園への送迎は大変」との声を多数伺う。また、2年前に議会の研修で千葉県流山市に行ったがここでは駅ビルの中の保育園をステーションにして、園児を他の園にバスで送迎している。市も南部地区にステーションを設け、既存地区の保育園に送迎したら、北部地域の活性化とバランスを取ることにもつながる。自宅から遠い北部地区の保育園でも、ステーションで送迎すれば保護者の負担も少なくなるのでは。

子育て支援課長 入所希望者の多い地域に送迎の場所を設け、入所保育園までバスで送迎するという送迎保育ステーションは、人口差の激しい本市にとっては有効な施策の1つと考えられる。今後、検討したい。

来海 子育て中の保護者の相談にじっくり乗ってくれる、「保育コンシェルジュ」を設けたらいいか。

子育て支援課長 保育園からも、コンシェルジュ配置の要望があがっている。保育などに関する専門の職員の配置は、事務処理上も有効であると考えられる。そういった知識を持った職員が必要であるかなどを、「コンシェルジュ」を配置している市町村に問い合わせながら、配置について検討したい。

来海 少子高齢化の波は必ず合志市にもやってきて、その中では特色のある保育をする保育園が生き残れると思う。そんな保育園は、卒園児や保護者が後押ししてくれる。保育園も、しっかりと特色をもった保育をされるようお願いする。

